

# 大和商工会景況調査報告書

## 1. 調査要領

### (1) 調査対象

- ア 対象地区 大和商工会地区内小規模事業者  
イ 調査企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)  
ウ 回答企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)  
(回答率 100.0%)

### (2) 調査対象期間

- 平成29年7月～平成29年12月  
(調査時点 平成29年12月1日)

### (3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

### (4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	7	23.3%	7	23.3%
建設業	8	26.7%	8	26.7%
卸・小売業	6	20.0%	6	20.0%
サービス業	9	30.0%	9	30.0%
合計	30	100.0%	30	100.0%

## 2. 地域内産業全体の景況概要

昨年度の下半期景況調査（H28年7月～12月）に比べ、売上高や採算について増加・好転との回答がみられ、若干の回復感がうかがえる。一方、仕入単価の上昇については、業種により相違はあるが上昇との回答が多く、販売単価に転嫁できていない状況もうかがえる。今後の見通しにおいては、売上・採算・景況判断において好転の回答も減少しており、先行きへの不安感も依然として拭えない状況である。

### 【後継者の状況】

H28年度に全会員対象の景況調査においても、後継者が決まっているとの回答は26.3%となっており今回の調査結果も同様の回答がみられた。事業継続の大きな課題となっている。

後継者 あり	8事業所	26.7%
後継者 なし	22事業所	73.3%

### 【売上高】

昨年度の調査に比べて、増加との回答が多く、売上高の回復がみられる。  
 （昨年度の増加回答：前年同期比1・前期比3・今後の見通し0）  
 一方、今後の見通しにおいては、不変の回答が半数を占めており、増加の回答割合も23%と一番低く、先行きへの不安感がうかがえる。

#### 前年同期比

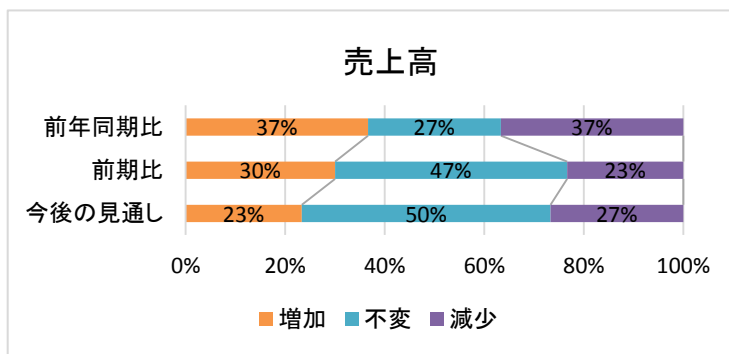
増加	不変	減少
11	8	11

#### 前期比

増加	不変	減少
9	14	7

#### 今後の見通し

増加	不変	減少
7	15	8



### 【採算】

売上同様に昨年度の調査に比べて回復傾向がみてとれる。  
 （昨年度の好転回答：前年同期比2・前期比3・今後の見通し2）  
 ただし、売上の増加回答に比べ、好転の回答割合が減少していることから、仕入原価や経費負担などによって利益を圧迫している状況もうかがえる。

#### 前年同期比

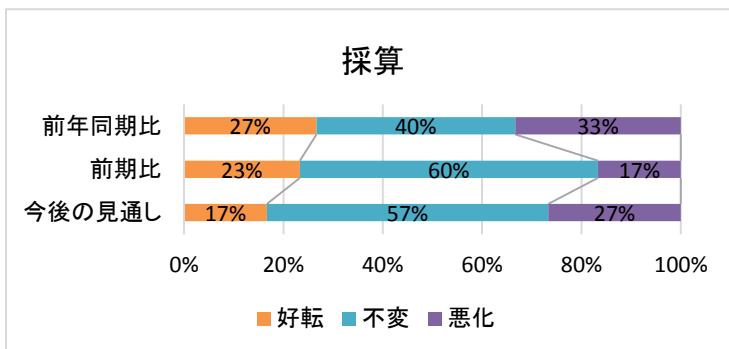
好転	不変	悪化
8	12	10

#### 前期比

好転	不変	悪化
7	18	5

#### 今後の見通し

好転	不変	悪化
5	17	8

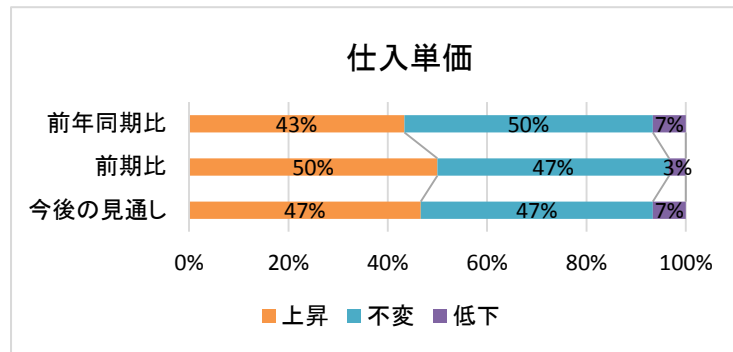


## 【仕入単価】

上昇の回答割合が4割～5割を占めており、昨年度の調査に比べても上昇回答が多くなっている。

(昨年度の上昇回答：前年同期比10・前期比11・今後の見通し9)  
業種別でも、全業種において仕入単価の上昇の回答がみられる。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
13	15	2	15	14	1	14	14	2

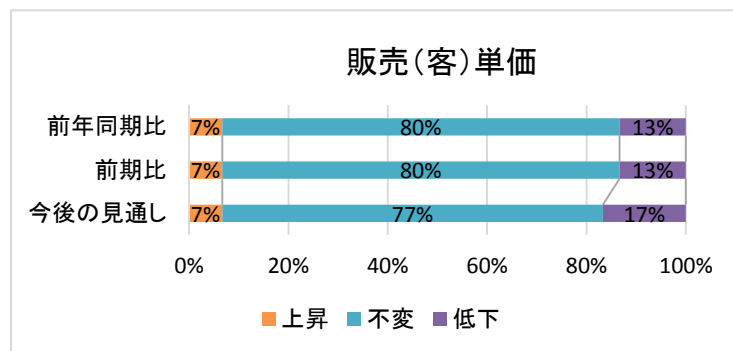


## 【販売(客)単価】

不変の回答がどの期においても多く、上昇の回答は前年度と比べ同様の回答結果となっている。

(昨年度の上昇回答：前年同期比2・前期比2・今後の見通し2)  
販売単価への転嫁が難しく、利益の確保にむけての課題となっていることがうかがえる。

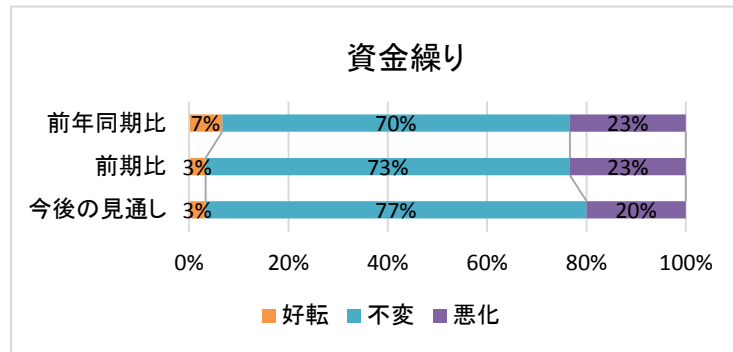
前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
2	24	4	2	24	4	2	23	5



## 【資金繰り】

全期において不変の回答が多くを占めている。悪化の回答は昨年度に比べ減少傾向にある。  
 (昨年度の悪化回答：前年同期比14・前期比14・今後の見通し14)  
 しかしながら、約2割の事業所が悪化との回答を示していることから、依然として資金繰りに窮している事業所もあることがうかがえる。

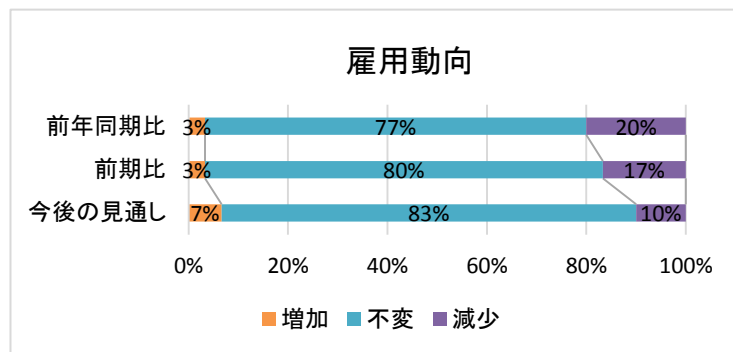
前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
2	21	7	1	22	7	1	23	6



## 【雇用動向】

不変の回答がどの期でも多く、元々従業員の雇用がなく、現状維持をはかっている状況がうかがえる。従業員を雇用している事業所においても、ヒアリングの中で求人を出しても中々良い人材に巡り合えないなどの声も多く聞かれ、マッチングがうまくいかないケースも見受けられる。

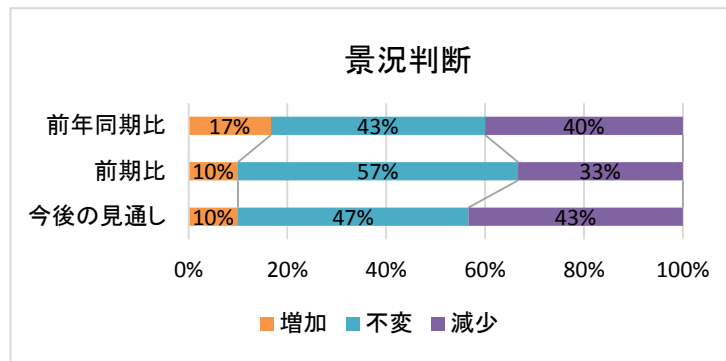
前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
1	23	6	1	24	5	2	25	3



## 【景況判断】

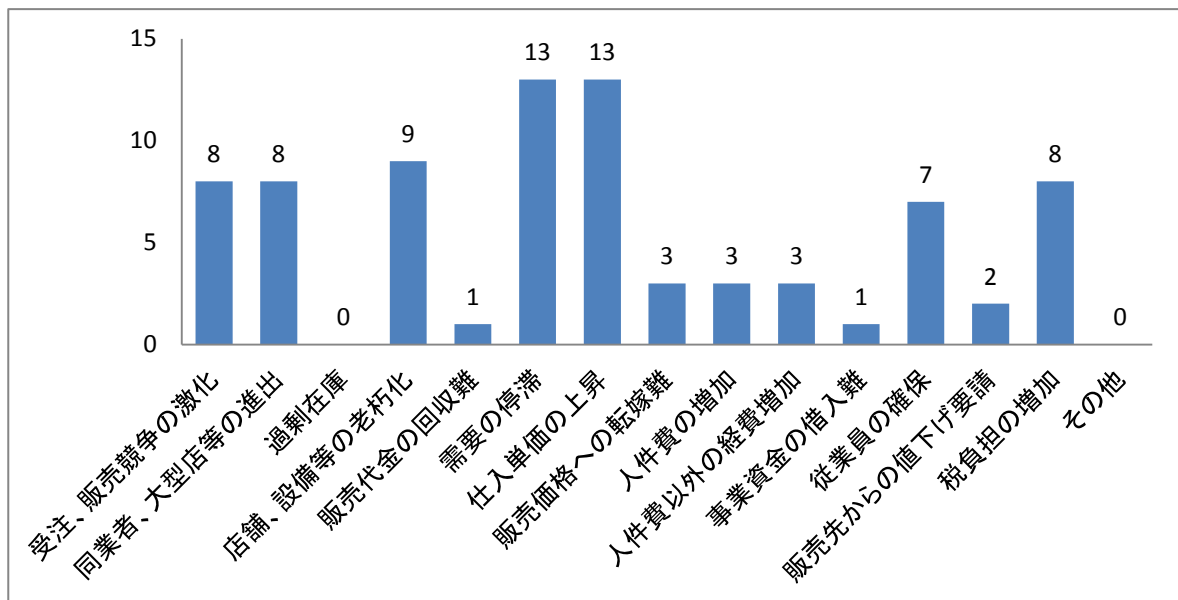
全体的に不変・悪化の回答が8割～9割を占め、景況感は依然として厳しい状況である。今後の見通しにおいては、悪化の回答も多くなり、今後も厳しい状況が懸念される。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
5	13	12	3	17	10	3	14	13



## 【経営上の問題点】

需要の停滞・仕入単価の上昇を問題点としてあげる事業所が多く、利益の確保が厳しい状況がうかがえる。当地区においては、大型店の出店も徐々にみられ、受注販売競争の激化や同業者、大型店等の進出にも多くの回答がみられる。また、店舗・設備の老朽化についても2番目に多くの回答があり、設備投資への躊躇もあることが見受けられる。



### 3. 産業別景況概要

#### (1) 製造業

前年同期比・今後の見通しにおいて約3割が売上増加と回答している。昨年の調査では増加は回答0で、約6割が減少の回答だったため、売上の回復もみられる。しかし、仕入単価の上昇により景況判断では4割強が悪化と回答しており、先行きに対しての不安感がうかがえる。また、問題点として店舗・設備の老朽化の回答も多く、業種的に投資の金額も高額となるため、設備投資へ踏み切れない状況や資金繰りに影響を及ぼすことも懸念される。

#### (2) 建設業

前年同期比と比べると半数が売上減少と回答している。経営上の問題点として、仕入単価の上昇がトップにきており見通しとしても上昇が続くため、同業者進出による受注競争の激化、受注先からの値下げ要請など、上昇分を客単価へ転嫁できず、これまで以上に利益を確保しづらくなっている状況がみてとれる。

#### (3) 卸・小売業

売上は不変・減少の回答が多く、昨年の調査同様減少傾向にあり、今後の見通しとしても回復はうかがえない。仕入単価においては前年同期比・前期比と比べると3割強が上昇したと回答しているが、今後の見通しでは不変の回答が多く、仕入単価の上昇が落ち着きつつあることが期待できる。経営上の問題点として、当地域におけるCCRC構想などによる大型店を含む新規事業者進出が、販売競争の激化となり、さらに、仕入単価の上昇分を販売価格へ転嫁することが難しい状況から、依然として厳しい状況がみてとれる。

#### (4) サービス業

前年同期比売上増加の割合が5割以上で、今後の見通しとしても維持できる回答となっている。昨年の調査では、同期比・前期比・見通しの全ての期において、減少の回答割合が一番多かったのに比べると、売上の回復がうかがえる。しかし、仕入単価が総じて上昇の傾向にあり、売上が増加しても利益の確保がままならず、経営にも影響を与えていることがうかがえる。またヒアリングから従業員の求人においても、労使共に良い人材に巡り合うことが難しく、雇用におけるミスマッチングも課題となっている。

